

コンサルタントに聞く補助金・助成金

シエアビジョン社長 小林卓矢氏



各種補助金申請支援や公的支援制度情報提供サービスなどを手掛けるシエアビジョン(東京・千代田区、小林卓矢社長)は2017年に創業。創業5年ですでに約450社のサポート実績を有し、その採択率の高さから大きな注目を集めている新進気鋭のコンサルティング会社だ。「補助金・助成金特集」を発行するに当たり小林社長を訪ね、同社の概況、17年5月に当社を要から補助金採択の助成金について話を聞いた。

小林社長の経歴は「2002年に明治

学院大学卒業後、大手コンサルティング会社に入社。事業本部長として、中小企業向けに事業計画策定による金融支援から各種補助金申請のコンサルティン

グサービスの新規事業を立ち上げ、ものづくりに補助金では2000社以上の企業を支援した。経済産業省主催の『中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン』策定検討会に検討委員として参加し、ガイドライン策定にも関与した。その後、入社当初からの起業の目標を実現すべく、17年5月に当社を設立した

コンサル活用で確実な補助金採択を

「創業からこれまで約450社のサポートを行ってきたが、ものづくり補助金に関して全体の採択率が40〜50%なのに対し、当社は90%以上の採択率を維持している」

「申請しても採択されないケースはどのよう要因が考えられるか」「まず数十ページにおよぶ公募要領をすべて理解し、その上で書類を準備するのだから、単独で申請される企業にとって、本業を抱えながら事業計画の策定は非常に難しい作業になると思われる。特に事業再構築補助金については昨年初めて施行されたので、書類の不備などで不採択になっている企業も1割近く存在していた。中小企業庁も認定支援機関と一緒に事業計画の策定を行うこと

を促していることから、実績のある専門のコンサルタントに依頼することが採択の早道になるのは間違いないと思う」

「では採択されるポイントは何ですか」

「それぞれの補助金制度目的に沿った計画書の書き方が必要だ。例えばものづくり補助金では『この溶接機を導入すれば効率化が図れる』だけでは採択を見送られるケースが多い。これに他社との差別化が図れる点など、付加価値を高める要素を加えると採択される確率は高まる。」

事業再構築補助金については、ものづくり補助金の要素に加え、最新設備を導入することで新たな製品づくりに着手し、事業領域を広げていくという点を強調しなければならぬ。審査項目をしっかり網羅する事業計画を策定することが求められ、事業者が自身の事業を客観的に自己分析できていないと採択さ

れる可能性は下がってしまう」

「最後に補助金活用を検討している企業に一言」

「溶接も板金も人手が足りない中、補助金を活用して設備投資を行い、仕事を増やしていき、事業は多い。やは定期的にしない事業を拡大することはできなれば幸いと思う」

このほか、請求書の発行や顧客名簿の作成、経費の精算など、面倒で時間のかかる業務をロボットが代わりにこなしてくれる『RPA』の導入支援も行うなど、顧客ニーズに沿ったきめ細かいサービスを展開してきたことが口コミで広がり、事業拡大につながった

「どのような企業からの引合いが多いか」「製造業関係では板金系の商社などからの引合いが多い。中でも三菱電機とは前職からのお付き合いで、独立してからでも愛顧いただいている」

「これまでの補助金申請における採択率は、単独で申請される企業にとっ